「元気が一番」塾

2005.3.19　優しい風（Loving-wind）仲島

（http://www2.bbweb-arena.com/naka602）

１．テレビドラマ「ごくせん」から学ぶもの

「友情」「信頼」「仲間」「優しさ」「思いやり」「家族」「礼儀」・・・・・・

大切なものは、ドラマでも学級でも同じ。　いいものはいい、ダメなことはダメ。

子どもはよくなりたいと思っている。子どもはいい仲間、いい学級を望んでいる。

そんな心地よさ、快感を一度でも体験した子どもは、強くなれる。

２．差別は大人がつくっている。大人は子どもから学ばなければならない。

普段の生活こそ最大の人権教育　　～平木中学校の卒業式答辞～

先生がえらそうに難しいことをしゃべるだけではダメ。仲間をつなぐこと。

３．学級の最後の日（修了式）　心に残る言葉を・・・

先生の「体温のある言葉」を子どもは待っている

通知表、学級通信、文集、写真、握手、だっこ、・・・・

４．着任式（離任式）のアイデアあれこれ

自分らしい斬新なあいさつを・・・「この先生おもしろそう」「この先生のクラスになりたい」・・そう思ってもらえるあいさつを考える。

５．○年○組学級開き（始業式）　「いい出会い」と「いいスタート」を

最初に何をする？　どっちも真っ白な状態

「この１年楽しみだなあ・・・」って子どもに思ってもらうためには・・

先生の表情を見て、新しい教室を見て、黒板の字を見て、運動場で遊んでみて、

こんな学級通信が出て（初日に学級通信が出るか出ないかは大ちがい）

６．連絡帳の効果的な使い方

始業式に、連絡帳に先生の言葉を書くか、書かないかは大ちがい

連絡帳は単なる連絡ノートではなく、家庭との温かいパイプにする

たまには、阪神のことも書くと和みます。

７．外で遊ばない先生は、子どもの心が見えない

若い時に遊ばずして、いつ遊ぶ？　そんな新任教師はいらない。

子どもは遊びの中で育つもの。

「悩んだらとにかく遊べ」の言葉は信じられる。